

2024年5月30日・6月1日・2日・4日

主催：（一般社団法人）障がい児成長支援協会

共催： 児童発達支援・放課後等デイサービス

「AtoZ Academy」

～早期からの療育が子どもたちを伸ばす！～

「小学校3年生で差がつく前に
どのような学習支援が必要になるのか？」

- 小学校3年生から大きく差が開いてしまう理由
- 学習障害(限局性学習症)とは何か？
- 文章問題や作文が苦手な子に対する支援

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 協会長

中部学院大学非常勤講師 山内康彦(学校心理士SV・ガイダンスカウンセラー)

発達障害の原因は脳の機能障害です

- ・ 自閉症スペクトラム障害
- ・ 注意欠陥多動性障害
- ・ 学習障害 の主に三種類

☆しかしほとんどの子どもは
障害に重なりがある

病名は一つでも実は複数が多い

発達障害のある子ども達への接し方

「困った子」は「困っている子」

「困った子だ！」と嘆いている

のは、大人の勝手な視点

☆実は一番困っているのは

その子ども本人

保護者・指導者として、困り感
に寄り添う姿勢が最も重要！

『心理検査の活用』と『応用行動分析』

本来判定に使うためのものではない

☆K-ABC・K-ABC 2

☆田中ビネー

☆WISCⅢ・WISCⅣ

☆新版K式

なぜこの子は顔を上げないのか→



個の知的特性等を把握し、その高低や
バラツキからその子に合った支援を考
える材料にするもの

家庭でも簡単にできる『発達障害』の判断

☆文部科学省は、通常学級にも6.5%の
発達障害の子ども達がいると公表

※最新の発表では8.8%に急増！

別紙資料のような調査を行った

※家庭でもできます（この後紹介）

お子さんの実態をチェックしましょう。

○ADHD? ○LD? ○ASD?

ぜひ、やってみてください(大人もできる)

お子さんはいかがでしょうか？ 自分はいかがでしょうか？

判断基準は、平成14年度に文部科学省が全国
で実態調査をしたときの判断基準をもとにし
ています。

学習面はLDに関するチェックリスト(LDDI)、
と(LDI)を参考、行動面(「不注意」「多
動性-衝動性)は(ADHD-RS)を参考、
行動面(「対人関係やこだわり等)は
(ASSQ)を参考にして作成。

保護者がお子さんの特性を理解する
 →通常級でも受給者証の取得は可能！
 ※特に不登校の多くは発達障害が原因

- 自閉症スペクトラム障害 (ASD)
 →◎自閉スペクトラム症
 - 注意欠陥多動性障害 (ADHD)
 →◎注意欠如多動症
 - 学習障害 (LD)
 →◎限局性学習症
- ※今は病気ではなく『タイプ』という考え方

まず、はじめに・・・ 講師紹介・・・

◎学校一番の問題児が先生 (心理士) になった

なぜ私が二次障害を起こさなかったか？

- ×苦手な事や課題を克服するマイナスを埋める教育では、所詮頑張っても「0」
 - 得意なことや好きなことを伸ばしていくことで、マイナス面も高まっていく考え方が大切
- (例) さかな君・トムクルーズ氏・金澤翔子さん

- ぼく (山内) にはたくさんの特技がある。
 (サッカー・手品・ギター・スキー・船舶免許)
- ※自信→自己肯定感となっていく
- ※大きな花1つのタイプや小さな花の花束タイプ

子どもは環境によって“成長”が変わる

◎種は同じロシアひまわり ◎植えた時期も同じ



“療育の質”によっても成長が大きく変わる

◎畑は同じでも肥料の与え方によって大きく違う



療育の“時期”によって成長が大きく変わる

◎後から肥料を与えても・・・与える時期が重要



発育発達期の身体的特徴① 運動も同じ

スキヤモンの発育曲線から
なんと神経系（脳など）は7歳までに成人の95%の大きさまで発達する。

幼児期～中学年にかけて感覚や、神経・筋コントロール能力の向上が著しい。つまり、今が大切！！

発育発達期の身体的特徴② 運動も同じ

ゴールデンエイジ（9～12歳）

「即座の習得」という特徴
※「プレゴールデンエイジ」における基本的な動きの習得が大前提

プレゴールデンエイジ（5～8歳）

様々な動きを経験することが大切

では、本題の『学習』についてのお話です

宿題について考えてみると・・・
そもそも宿題として内容が正しいか？
☆宿題の本来の目的は・・・
『学校で習ってできるようになったことを家庭でも繰り返し行って定着させること』

しかし、それでは早く終わってしまうので保護者が『もっと出してくれ』という。すると先生は、『もっと長い時間机に座ってられる宿題を！』となる・・・
×ノートいっぱい漢字練習・×日記1頁以上 →面白くない

《学習支援のポイント》

心理学的に“やる気”の出る時から考える

- ①楽しい 面白い やってみたい
- ②できる わかる 上達する
- ③ほめられる 認められる ご褒美がある
- ④怖くない 安全 安心

学習について①は、難しい！
②と③と④を改善することならでき！
『できることから』『×をつけない』『しからずほめる』の3つがポイント

できることからの出発



《通常の教育》

「できないこと 新たなことへのチャレンジ教育」
今までにできた経験・成功体験が多いから進んで取り組むことができる。

《特別支援教育》

「できることからの出発の教育」
成功体験を積み重ねて自信をつけさせる

本当に力をつけるなら、
遅れないようにするなら
学習は「捨てる勇氣」をもつことが大切
※学校の先生は全てをやらせたい
→学習ができない・遅れる

カレーライス理論？

1 ラッキョ 2 ライス 3 カレールー
いらない 半分可 絶対必要

本当に必要な学習内容だけをしっかりと取り組ませる→学校との連携が大切
×アクティブラーニングが合わない

作文指導のポイント ※パターンで教える

題 今日楽しかったこと

- 今日楽しかったことは三つあります。
- 一つ目は・・・
- 二つ目は・・・
- 三つ目は・・・
- 其中最も一番楽しかったのは・・・です。
- わけは、・・・・・・・・・・だからです。
- そのことをお母さんに話したら「・・・・・・・・・・」と言いました。
- 僕は・・・・・・・・・・と思いました。
- 明日も楽しいことがたくさんあるといいな。

読書感想文や将来の面接にも応用可能

読書感想文(題 ○○を読んで)

- を読んで面白かったことは三つあります。
- 一つ目は・・・□二つ目は・・・□三つは・・・
- 其中最も一番面白かったのは・・・です。
- わけは、・・・・・・・・・・だからです。
- そのことをお母さんに話したら「・・・・・・・・・・」と言いました。
- 僕は・・・・・・・・・・と思いました。
- 次に不思議に思ったことも三つありました。

面接・願書

- 僕がこの会社を選んだ理由は三つあります～

字を書く時のポイント

- ①マスを大きくして→できそうという気持ちを出す
 - ②繰り返し書く量を減らして→意欲をもたせる
 - ③うすく鉛筆で手本を書いてなぞらせることで→失敗しない安心感をもたせる。
- 100年前の寺小屋の授業を行っていませんか？
今は、パソコンの時代です。
ならば・・・
×はねやはらい、書き順をただしく書かせる時代
◎文字のつくりが合っていることが大切
☆文化庁2016年「常用漢字表の字体・字形に関する指針(報告)」文字の細部に必要以上の注意が向けられ・・・漢字の正誤が決められている。

算数の文章問題を解くポイント

- ①『はじめの数はいくつ?』
 - ②『うしろの数はいくつ?』
 - ③『何算の問題?』
 - ④『答えの単位は何?』
- (例:問題) りんごが5個ありました。3個食べました。残りは何個ですか?
- りんごが5個ありました。3個食べました。残りは何個ですか?

$$5 - 3 = 2 \quad \text{答え} \quad 2 \text{個}$$

算数の文章問題を解くポイント

- ①『はじめの数はいくつ?』
 - ②『うしろの数はいくつ?』
 - ③『何算の問題?』
 - ④『答えの単位は何?』
- (例:問題) りんごが2個ありました。5倍になると何個になりますか?
- りんごが2個ありました。5倍になると何個になりますか?

$$2 \times 5 = 10 \quad \text{答え} \quad 10 \text{個}$$

算数の文章問題を解くポイント

- ①『はじめの数はいくつ?』
 - ②『うしろの数はいくつ?』
 - ③『何算の問題?』
 - ④『答えの単位は何?』
- (例:問題) りんごが10個ありました。2個ずつ仲良く分けると何個になりますか?
- りんごが10個ありました。2個ずつ仲良く分けると何個になりますか?

$$10 \div 2 = 5 \quad \text{答え} \quad 5 \text{個}$$

パターンを増やしていく

- ① もらう・拾う・飛んでくる→増えると『たし算』
- ② 落とす・食べる・あげる →減ると『ひき算』
- ③ 何倍・五つ分・・・・→『かけ算』
- ④ なかよく分ける・同じ数分ける→『わり算』

※ほぼ上記のやり方かで8割近い問題を解くことができる

100点めざして、基礎的な問題までも理解できなくなってしまうケースがある。ならば、2割の変わった問題を捨てて、基礎的な文章問題を解けるよいにすればよい。

捨てる（避けると良い）文章問題の例

①クッキーを5枚食べました。今日はクッキーを3枚食べました。合わせて何枚食べましたでしょう。
※“食べた”なのにたし算？→混乱する

②今朝りんごが3個あります。昨日は5個ありました。何個食べましたでしょう。
※“3-5”？→引けない？

▲（通常の教育）基礎→応用→発展→テスト

◎（特別支援教育）基礎→基礎→基礎→テスト
※基礎を三倍することで定着する70点でOK

長文理解のさせ方

“長文理解”と思うから楽しくない

※“長文理解”は、『宝探し』と考えて遊ぶ気持ち

- ①必ず答えは問題の近くに隠れている
※まずは、問題文の前後にある
- ②学年が進むにつれて問題文から答えになる部分が離れ行くから難しくなる

▲その学年の長文は答えの距離が遠く探せない

◎まずは、取り組む長文の学年レベルを下げて、答えを見つけることができるものに取り組む

長文理解のさせ方

出典（株）学書「ウインター練成」国語小1より

では、実際に小学校1年生の典型的な長文問題を解いてみましょう。

- ①基礎問題
- ②少しレベルが上がると・・・

▲順番に解かないと気が済まない習慣は正す

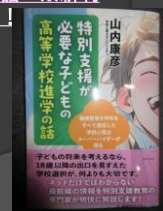
◎まずは、できる問題から取り組むことがポイントとなってくる。

ご清聴ありがとうございました



オススメ ほめる育て方や進路についてわかる本！

- ①特別支援教育って何？
- ②特別支援が必要な子どもの進路の話
- ③特別支援が必要な子どもの「就労・進学・進路」相談室
- ④特別支援が必要な子どもの高等学校進学の話→※新刊 WAVE出版→書店・アマゾン等で購入可能！



個別相談会を無料で行います

令和6年6月9日（日）

9時30分～19時30分まで

※講演会終了後、Mailでご連絡ください。

《具体的に以下のようなお悩みの方》

- ①特別支援学級に行くことを進められている方
- ②通常の学級へ転籍したいと考えている方
- ③将来の進路（高校進学等）でお悩みの方
- ④学校の学習だけでは、進度が遅れていっている方
- ⑤行き渋りや不登校の傾向があって悩んでいる方
- ⑥約束を決めてもゲームやYouTubeをやめない方